

水産海洋地域研究集会

第 15 回伊勢・三河湾の環境と漁業を考える
「近年見られた水産資源と海の変化 ～2014 年に着目して～」

日時：2019 年 11 月 30 日（土）13:00～17:30（受付 12:30～）

場所：名古屋大学 IB 電子情報館 IB015 講義室（愛知県名古屋市千種区不老町）

共催：一般社団法人水産海洋学会，愛知県水産試験場，三重県水産研究所

後援：愛知県漁業協同組合連合会，三重県漁業協同組合連合会

コンピーナー：日比野 学・松村貴晴・蒲原 聡（愛知水試）・曾根亮太（愛知県水産課）・
勝田孝司・辻 将治・羽生和弘（三重水研）

挨拶 山下 洋（一般社団法人水産海洋学会長） 13:00～13:05
趣旨説明 日比野 学（愛知水試） 13:05～13:15

【基調講演】

座長 黒田伸郎（愛知水試）
一次生産の変化と有用種の関係 ～瀬戸内海の事例～ 13:15～13:50
浜口昌巳（瀬戸内水研）

【事例報告】

座長 曾根亮太（愛知県水産課）
(1) 増えた資源と減った資源 13:50～14:15
笹木大地・岡田 誠（三重水研）
(2) イカナゴはじめ魚類に起こったこととこれから 14:15～14:40
下村友季・鶴寄直文・植村宗彦（愛知水試）・倉田恵吉（三重水研）
(3) アサリに起こったこととこれから 14:40～15:05
日比野 学・服部宏勇・松村貴晴・宮脇 大・鈴木智博（愛知水試）
(休憩)

座長 羽生和弘（三重水研）
(4) 伊勢湾とその周辺海域で見られた特異現象 15:15～15:40
辻 将治・久野正博（三重水研）
(5) 衛星データによるクロロフィル濃度に見られた特徴 15:40～16:05
石坂丞二（名大宇宙地球環境研）・林 正能（(株) SAT）
(6) 気象・海象と植物プランクトンの推移 16:05～16:30
湯口真実・蒲原 聡・美馬紀子・松村貴晴（愛知水試）
(7) 三河湾における栄養塩低下の影響と供給に向けた取り組み 16:30～16:55
蒲原 聡（愛知水試）

【総合討論】

進行 日比野 学（愛知水試） 16:55～17:30
パネラー 浜口昌巳（瀬戸内水研）・石坂丞二（名大宇宙地球環境研）・津本欣吾（三重水研）・
中村元彦・蒲原 聡（愛知水試）

開催趣旨：伊勢・三河湾では，代表的な 2 種類の水産資源が近年急減した．アサリとイカナゴである．両種とも漁業者による積極的な資源管理が従来から行われ，安定した漁獲量を維持してきた資源である．アサリは底生，イカナゴは浮魚と，両種的生活様式は異なるが，この海域で生活史を完結し，沿岸域で成長し漁業資源に加入する点は共通する．両種の漁獲量は，2014 年頃から大きく減少している．その一方で，サワラやマダイ等，いくつかの魚種がこの頃から増加しており，当海域において水産資源の構成や生産構造の変化も生じている可能性がある．伊勢・三河湾では，流入負荷削減等による栄養塩濃度の長期的な減少が確認され，生産性の低下が指摘されつつあるものの，その影響は明らかではない．今回の研究集会では，特にアサリとイカナゴの減少前後を抽出し，水産資源や海象に見られた特徴を整理するとともに，水産資源に影響を与えた可能性のある要因を議論し，伊勢・三河湾海域で何が生じているのかを記録したい．また，漁業の対応についても，長短期それぞれの視点から議論したい．